

現在、4年目の産科婦人科医 城 大空先生に、産科婦人科医を目指した理由等、気になるところをインタビューさせてもらいました！このインタビュー記事は、e-resident2011年度の長崎大学病院 インタビューコーナーに掲載されています！他の先生方のインタビューも掲載されていますので、是非 e-resident ホームページ (<http://www.e-resident.jp/index.php>) から長崎大学病院を検索ください！



質問① 先生が産婦人科医を志した理由を教えてください。

将来の専門科として、産婦人科を考える最初のきっかけとなったのは国家試験の産婦人科の症例問題でした。産科の症例問題で、刻々と変化する分娩進行中にその時点でもっとも有用な検査、処置は何か、といった問題を解きながら、面白そうだな、格好良いな、と憧れのような感情を抱きました。そして、初期研修が始まり、小児科を3ヶ月、その後連続して産婦人科を1ヶ月研修し、実際の周産期の現場を経験させていただきました。実際は、問題集のようにこうならこう、と言ったいつも正しい答えが一つというわけではなく、患者さんや家族の気持ち、また医療体制など複数の因子が関係してくる中、先生方は一生懸命ベストを尽くされていました。妊婦さん、家族の方の人生におけるビッグイベントである出産を介助し、心から祝福できる仕事を私もやっていきたい、と感じました。また、研修医2年目の夏に産婦人科医局の先生から日本産婦人科学会が主催する産婦人科サマースクールという医学部生、初期研修医を対象とした研修会へお誘いいただき、参加させていただきました。この時に全国の様々な産婦人科の先生方のお話を伺うことができ、産婦人科への道を決意する大きなきっかけとなりました。

質問② なぜ長崎大学産婦人科教室の後期研修を選んだのでしょうか？

質問② なぜ長崎大学産婦人科教室の後期研修を選んだのでしょうか？

私は、長崎大学出身で、学生実習の際に産科婦人科教室の先生方に熱心に指導していただきました。毎日充実した楽しい実習でした。また医局の先生方がお互いに家族のような雰囲気、温かい印象を受けたことを覚えています。このため、長崎大学産科婦人科教室には親しみがあり、また、もともと地元の長崎で働きたいという気持ちがありましたので、産婦人科になるのであれば長崎大学の産婦人科医局に入ろう、思っていました。

実際に初期研修2年目に入局を決めた際には、これらの気持ちに加え、今後、産婦人科医として修練していくにあたり、様々な専門医を持った先生が複数常駐する大学の医局はもっとも良い環境ではないかと思い、当教室での後期研修を選択しました。

質問③ 先生の週間スケジュールを教えてください。

研修医1年目（当時）の私は主に病棟業務と週に2～3回の手術、そして週に1回の外来業務を行っています。

病棟業務は産科病棟では妊婦さんの胎児心拍陣痛図や胎児超音波検査などを行い、母体、胎児の状態を確認します。婦人科病棟では術前、術後の患者さんの診察や悪性腫瘍の化学療法を行っています。

外来業務は子宮頸部異形成の患者さんの定期診察の外来を行っています。また、毎週火曜日の夕方は産婦人科セミナーとして、全国の様々な施設より産婦人科の多岐に渡る専門分野で活躍されている先生方を講師としてお迎えしての講演会や、当科へ緊急搬送された症例について、県内の開業医の先生方にも参加していただき、症例検討会が行われており、勉強させていただいています。これらの大学病院での業務に加え、不定期に県内の子宮癌検診の仕事や別の病院の外来へ外勤に出ることがあります。土日は当直が入っていなければ、お休みで、当直は土日を含め、月に5～6回あります。

質問④ 仕事は、きついですか？

正直に言うと、きついなあ、と思うことはあります。

しかし、それ以上に新しいことができるようになった時の充実感や、患者さんから感謝の言葉をいただいた時の喜びが大きく、きちんと頑張った報酬があることがわかっているので、きつい、きつい、もうやめたい、などとは全く思いません。また、上級の先生方がご自分が若かった頃の話をして下さり、今の私と重なる部

分もあり、励みになります。どんな仕事であってもきついことはあると思います。また、ある程度きつい思いをしないと立派な仕事人にはなることができないと思います。工夫して効率をよくしたり、上手に気分転換ができるようにしていきたいと心がけています。私たち長崎大学の産婦人科修練医は長崎県より奨励金として、月給とは別に毎月20万円支給していただいております。金銭的な面でストレスを感じることはありません。

質問⑤ 医局に入るメリットはなんですか？

様々な年齢、様々な得意分野を持った上級の先輩方に、長期に渡りご指導していただける点だと思います。

また、規模が様々な関連病院での勤務を経験することによって、多岐に渡る症例を経験することができますし、患者さんを搬送する側、搬送される側の両方の視点を持つことができます。これらによって視野の広い医師に成長していくことができるのではないかと考えています。また、私は今年度、**大学病院間交流プログラム**を通じて富山大学病院産婦人科に研修に行かせていただき、大変刺激的で勉強になりました。このような幅広いプログラムを利用することができる点も大学病院の医局に入るメリットではないかと感じています。

質問⑥ 医局の雰囲気はどうですか？

家族のような雰囲気です。それぞれの先生にとってお父さんの役割、お母さんの役割、お兄さん、お姉さんの役割の先生がいらっしゃるのではないのでしょうか。私は現在入局1年目で一番末っ子ですが、何でも話せる先生、少し緊張してしまう先生、様々ですが、大家族の中にいるような安心感があります。これから大家族の中でいろいろと教わり、吸収し、そして私も後輩達によき指導ができる人財になっていきたいと思っています。

質問⑦ 今後、どうやって、自分のキャリアを積んで行くか、教えてください。

まずは産婦人科全般的な知識、技術を医局の先輩方のご指導のもと習得し、各種専門医の取得を目指したいと考えています。現在、長崎大学産婦人科医局には産婦人科領域における全ての専門医がそろっており、日常診療を通じて日本産科婦人科学会専門医および全てのサブスペシャリティを取得可能な研修プログラムを受けることが出来ます。また臨床技術のスキルアップに加えて、社会人大学院生として大学院へ進学し、臨床とリンクした基礎研究を行い、将来の臨床に役立たせたいと思っています。

質問⑧ 女性医師に対する医局のサポート体制を教えてください。

医局の女性医師に対するサポート体制は非常に充実していますので、産婦人科医局の女性医師全員が出産後も職場復帰することができます。その具体例を挙げてみます。

① 育児休業制度の導入が徹底されています。

長崎大学病院と医局から産婦人科医を派遣している病院では、育児休業中の女性医師は給与の30～40%が支払われ、社会的・経済的補償が受けられます。これは男性医師にも適用されています。

② 復帰医師制度（パートタイム勤務）を導入しています。

産婦人科医局では、フルタイムで勤務できない医師が、パートタイムで勤務できる勤務体制を整備しています。主に、復帰医は家族の育児支援に応じて週1～4日勤務を自由に選択することができ、当直が免除されています。現在、関連病院も含め産婦人科で3名の女性医師が復帰医として周産期医療の第一線で勤務し、女性医師の勤務復帰支援につながっています。

③ 当直が免除あるいは軽減されています。

産婦人科医局では、育児休業から職場復帰した医師は当直が免除されています。また、未就学児童を抱える女性医師は当直回数が半分に軽減されています。

④ 時間外ワークシェアリングシステムが構築されています。

育児休業や復帰医師制度によるフルタイム常勤医への負担を分散化し疲弊を解

消するため、長崎市内の病院間で互いに産婦人科医師を派遣し合う“時間外ワークシェアリングシステム”を構築しています。

⑤ 育児休業中あるいは離職中の女性医師にも再教育の機会が提供されています。産婦人科医局が主催する地方部会などでは保育所を設置し、育児中の女性医師も勉強しやすい環境が整備されています。また、パートタイム勤務、学術講演会や毎週開催している産婦人科勉強会の情報を育児休業中あるいは離職中の医師にもメーリングリストで公開し、再教育の機会を提供しています。

質問②長崎大学病院としては、どのようなサポートがありますか？

(後期研修専門部署 医師育成キャリア支援室がお答えします)

1. あなたの進路と一緒に考え、あなたの相談に専門のコーディネーターが対応します。
2. 入局する、しないに関わらず長崎大学、長崎県の研修病院で働き始めるまでをサポートします。

3. 働きはじめてからの、専門医を修得する計画と一緒にたてます。
4. 半年～1年に1度進捗状況を指導医とともに確認します。専門医試験受験時に、旅費などについてもサポート予定です。(年度予算により変更する場合があります)
5. 協力大学での研修時には、旅費・宿泊費の一部を支給します。
6. 専門医修得後に長崎大学病院よりコース修了証が授与されます。
7. 専門医修得後の進路についての相談にのります。

他にも、無料英会話教室、DynaMedの無料使用、住まいの紹介……
いろいろな特典やサポートがあります。

詳細は、HP <http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/career/> &
ブログ <http://careerngs.exblog.jp/> をご覧ください！



H20プログラム長崎大学初期研修 修了者に聞きました！

長崎大学病院 初期研修の利点

- ・研修医に優しい人が多い
- ・研修医の当直が、内科・外科に別れていないところが良い
- ・電子カルテがあると、いろいろ分かって勉強になる
- ・選択できる科が幅広い
- ・マイナー科希望の研修が出来る
- ・指導医の先生方より、熱心にかつ優しく指導してもらえた。本当に長崎大学病院で研修出来て良かった！
- ・市中病院で研修できる(救急外来での初期対応、診断のついてない患者を診察するトレーニングが出来る)
- ・臨床教育・研修センターや各科それぞれの先生が、研修医個人的に目を配ってもらえる。何か困ったことがあったら手を貸してもらえること
- ・指導医の先生方が、熱心に丁寧に教えてくださる。
- ・文献検索をしやすい
- ・研修医向けのレクチャーが多数受けられる
- ・研修医担当の方々が、研修しやすい環境を作ってくれる
- ・研修を良くしようとしているのが伝わる
- ・患者さん1人1人の症例をじっくり考えられる
- ・分野毎の専門家に最新の知識を教えてもらえる
- ・すばらしい同期に出逢えた
- ・他大学出身には、研修医室の存在が大きかった
- ・臨床教育・研修センターやキャリア支援室によって手厚いサポートが得られる
- ・グラウンドラウンドや定期的なセミナーの開催など教育面も活発
- ・若手雑務軽減に取り組みいろいろと改革が進んでいる

長崎大学病院 初期研修の欠点

- ・よくわかりません
- ・研修科の実例実績をもっと知りたい
- ・学生時代から長崎大学病院でしか教育をうけていないので、外の事を知らずに井の中の蛙になっていないか少し心配
- ・救急当直がなかったので、3年目ですぐに外当直をしなければならないことを考えると非常に不安 ←救命救急センターでは、研修当直あり！
- ・自分の机がない ←7月から新研修医室に、一人一台ずつ机が用意されます！
- ・研修内容については、まだまだ各医局に「おまかせ」体制すぎる。せっかく利点があっても、実質は昔ながらの研修内容を強いられる日々が多い
- ・当直業務が(大学病院には)ないので、緊急時の対応・プライマリケア・自己決断力の養い等は強化しにくい
- ・若手雑務軽減の名目で医師ではなく看護師に血液培養をとらせる動きが生まれたい。血液培養の採取が「雑務」であるはずがない。



- ・学問的興味 ・地元で働きたかった
- ・初期研修が長崎大学病院だったから
- ・先輩が多く、しっかり勉強できる環境だから
- ・医局の雰囲気良かったから
- ・新しい環境に変わってストレスを感じるよりも、出身大学であり、実際に研修した場所である長崎大学病院を選択した
- ・今後の医師生活を考えて自分自身のペースで仕事出来る診療科を選択した
- ・同じ目標を目指す人材と身近に接しながら、日常業務では専門性も高められる
- ・今まで培ってきた長崎という地域に対する理解や人脈を生かして一地域医療に取り組み、将来的にはここでの経験を発展途上国や熱帯地の地域医療にも生かしたい
- ・進路は、決めていたが母校(長崎大学)へ戻るか、初期研修先(県外)に残るか悩んだが、長崎大学へ医局見学に来て、医局の雰囲気が良かったことと、知り合いや先輩が沢山いるので、充実した研修を受けられそうと思ったから
- ・入局先と早目に連絡をとっていたので、入局までがスムーズにおこなえそうだったから
- ・学生の時から知っている先生方が沢山いることと、外へ出てみると人脈の重要さと長崎大学には研修環境が整っていることがよくわかった
- ・他大学で初期研修を行った時に、母校にそのまま残って知り合いの先輩方から指導を受けている研修医の姿を目の当たりにして、とても衝撃的だった。それまで母校(長崎大学)へ帰るつもりはなかったが、母校に帰って熱心に指導して下さる知り合いの先輩方の下で研修を行いたいと思ったから。
- ・初期研修は他大学で行ったが、長崎大学は自分の意見を聞いてくれて自分の意見を話しやすい環境だったから、後期研修は長崎大学へ戻ろうと思った。
- ・きちんとした指導を受けられる
- ・きちんと教育システムが整っている
- ・症例に偏りがなく勉強が出来る
- ・人が温かいので、安心して研修に専念できる環境だと思ったから
- ・レジデントへの指導の仕方が良かった
- ・母校だから安心して入局出来る
- ・長期的な将来の目標を考えて



長崎大学病院 臨床教育・研修センター(医師育成キャリア支援室)

TEL: 095-819-7847

FAX: 095-819-7882

MAIL: career@ml.nagasaki-u.ac.jp

HP: <http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/career/>

BLOG: <http://careerngs.exblog.jp/>

